

<p>会報を発行し、生徒の状況を保護者に知らせることができた。</p> <p>《課題》</p> <p>○学習指導・学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> さらに授業に集中するような指導の工夫をする必要がある。 <p>○進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 厳しい就職状況に対応できるような生徒の育成を工夫することが課題である。 <p>○生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 制服の着用について、職員全体の指導の徹底が必要である。 人の話を聞く態度の育成が必要である。 生徒の実態に即した指導方法について、さらなる研究が必要である。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域との交流をはかり、学校の広報活動になお一層務める必要がある。 学年と各部との連携・協力をさらに強化し、学校全体で指導する必要がある。 		<p>改善に努める。</p> <p>④ 登校時指導、巡回指導、学年集会・全校集会の指導を徹底し、度重なる違反者に対しては保護者との連携を密にするとともに協力を要請し、学校・家庭が一致協力して再発防止に努める。</p> <p>⑤ 真摯な部活動を通して責任感や自立心、忍耐力を養い、規範意識を基盤とした自主的活動ができる人材を育成する。</p>	
	<p>豊かな心の育成とカウンセリングの充実</p>	<p>① 読書指導や挨拶運動、密度の濃い学校行事を通して学校への帰属意識を深める。</p> <p>② 地域社会の諸団体と連携し、ボランティア活動等の体験的な学習を推進し、豊かな心と規範意識の高揚に努める。</p> <p>③ 生徒会活動や特色ある学校行事を通して、郷土を愛する心と愛校心を育成する。</p> <p>④ 校舎内外の美化に努め、清楚な学習環境を維持することにより生徒の豊かな情操を育み、環境美化の心を養う。</p> <p>⑤ カウンセリングの定期的実施により、問題を抱えている生徒の学校生活への適応を図り、校内研修会の実施と支援体制づくりを推進する。</p> <p>⑥ 1年次に「道徳」の授業を通して、生徒の発達段階に応じた人間としての在り方生き方に関する指導を行う。</p>	<p>B</p>
	<p>家庭・地域社会との連携を図るPTA活動</p>	<p>① 卒業生の進路状況や在校生の進路希望状況、学校行事や部活動の成果等をPTA会報やHPにより地元の小中学校等に情報を発信し、特色ある学校づくりについて地域社会の理解を深め協力体制をつくる。</p> <p>② 学校評議員等の意見や助言を尊重し、学校教育体制の見直し・再点検を積極的に実施する。</p>	<p>C</p>

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	生徒の実態に応じた授業を展開するとともに、より一層の基礎学力の向上をはかる。	習熟度別授業の導入等によって、個々の生徒の学力を向上させる授業展開をはかる。生徒にとって分かる授業を目指して、授業展開および教材の工夫をはかり、年間指導計画にもとづいて計画的な指導を行う。生徒が主体的な学習がはかれるように工夫するとともに、評価と一体化した授業方法をさらに検討する。	A B B	B ・習熟度別授業の定着をはかり一層分かりやすい授業を実施する。 ・わかりやすい評価基準の検討
国語	基礎学力の向上を図る。 進路に応じた表現指導を強化する。 漢字検定・日本語検定の合格率の向上を目指す。	高校生としての基礎的な漢字とことばを繰り返し学習することにより、語彙力を豊かにさせ基礎学力の定着を図る。 N i Eの実践の中で読むことを通して、文章を読み的確に理解する力を身につけさせる。 作文や小論文などの文章を書くことを通して、自分自身に対する理解を深める。 文章を書くことを通して、自己の意志や考えを的確に表現する力を養う。	B B A A B	B ・基礎力（語彙力）の低下に対応した授業展開を図る。 ・家庭学習の充実を図る ・習熟度別学習の効果的な展開方法を研究する。
教 地歴	基礎学力の向上を図る。 より良い指導法を探求する。	小テストや問題演習の時間をとり、実力養成に努める。 検定合格に対する意識を高めさせ、自学自習の習慣を定着させる。 基礎的な古典の知識を身につけさせ、古典に親しむ態度を身につけさせる。 百人一首大会という学校行事を通して、古典への興味・関心を高めるための工夫を図る。 歴史用語を漢字で正しく表記できる力を養う。 学力不振者に対する補習を実施する。	A A A B B B	B B ・歴史の基本的な事項を復習し、定着させる授業の工夫をする。 ・地理的な事項を1年

科 民 数 学 理 科 保 体 芸 術 英 語	史	考查に偏らない総合的な評価に努める。	課題やノートを提出させ、定期的に点検する。	A	B	次から確認する授業を行う。			
		基礎学力の向上を図る。	生徒個人々の授業態度の観察や出席状況の把握に努める。	A					
	公		「現代社会」の用語を漢字で正しく表記できる力を養う。	B			B	・時事問題に目を向けさせる授業展開を工夫する。 ・ニュースを毎時間取り上げる。	
			新聞記事やテレビ、インターネットから「現代社会」の諸問題を探求させる。	A					
			学力不振者に対する補習を実施する。	B					
		より良い指導法を探求する。	担当者間で教材の開発・活用法について話し合い、工夫改善を計る	B					
	民		教科会等で授業展開の問題点・改善点について意見交換する。	B					
		考查に偏らない総合的な評価に努める。	課題やノートを提出させ、定期的に点検する。	A					
			生徒個人々の授業態度の観察や出席状況の把握に努める。	A					
	数		基礎学力の向上を図る。	小テストなどを通して基礎学力の定着を図る。講座内の学力差に配慮し、習熟度別の課題を利用するなど、個々の課題に応じた学力の向上を図る。			A	B	・基礎学力向上のために少人数制などの工夫した授業展開。 ・課外等での進路に対応した指導をする。 ・検定試験への積極的な参加を促す。
				小テスト・定期考查の結果をもとに、理解の不十分な生徒には個別指導をする。			B		
				長期休業には基礎学力定着を目的とした課題を出題し、学習の機会をつくる。			A		
		進路に応じた指導を強化する。	2・3年Ⅱ類系では少人数授業による細やかな指導を展開し、3年Ⅰ類系前期では就職試験に対応した問題に取り組むなど、進路希望に応じた学習内容を構成する。	B					
	学			課外授業やセミナーを実施し、進学希望者の実力養成を推進する。			B		
			わかる授業への改善に努める。	教科内で教材の作成や活用法について話し合いを持ち、工夫改善を図るとともに、授業展開の問題点・改善点について意見交換する。			B		
	理		基礎学力の向上を図る。	小テストなどを通して基礎的・基本的内容の定着に努めるとともに、学習の到達度を把握する。			B	B	・基礎的・基本的内容の定着と授業に臨む態度の育成のため、より一層の工夫に努める。
				ノートやプリントの点検、授業態度の観察を通じて授業に臨む態度の育成に努める。			B		
	科		進路に応じた指導を強化する。	進路に応じて課外授業を設け、少人数指導を行う。			B		
			授業に関心を持たせるように指導法を研究する。	IT機器の利用やプリントの工夫を通じて分かる授業の展開に努める。			A		
	保		生徒の実態に応じた指導計画の充実を図る。	運動を通して体力の向上を図り、運動技能を高める。			B	B	・運動量の確保 ・服装等の授業に臨む態度の育成
			授業を通して、きまりを守って安全に活動する態度を育成する。	C					
		生涯体育に結びつくように努める。	運動の特性に触れ、楽しさや喜びを味わうことで、継続的に運動ができる資質・能力を育てる。	C					
体		自らの健康を管理し、改善していく力を養う。	視聴覚教材を用いながら、心身の健康について理解させ、意志決定・行動選択などの実践力を高める。	B					
芸		実技内容の精選に努める。	興味関心を高めるように教材を精選する。	B	B	・自己研鑽に努め、授業態度・興味関心を高める工夫をしていく。			
			個々の能力に応じたきめ細やかな指導を工夫する。	B					
		基礎的な知識を養い表現・鑑賞の能力を高める。	小テストなどを取り入れ、表現・鑑賞の理解度を高める。	B					
			芸術の真髄に触れさせるために映像等を活用する。	B					
術		芸術がわかる喜びを実感する授業に努める。	授業内容・方法等について授業改善に努める。	B					
			各種研究会、発表会に参加し自己研鑽に努める。	B					
英		基礎学力の向上に努める。また上位者には応用力を付けさせる。	小テストなどを通して、基礎的な内容の定着を図る。	B	B	・英語による授業の本格実施にむけて、積極的に研修等で指導法や英語力を充実させ、校内で学んだことを共有化する。			
			小テスト・定期テストの結果を参考にして、不十分な生徒には補習を実施する。	B					
			生徒に自分の学習態度や課題提出の状況を知らせ、学習への動機付けをはかる。	B					
			自主学習を勧め、家庭学習の定着を図る。	C					
		資格取得を目指す積極性を養う。	進学を目指す生徒に、進学課外を通じて応用力を付けさせる。	B					
			英検資格取得のため、進学クラスを中心に、英検の問題を取り入れた授業を展開する。	B					
語		英語が分かる喜びを実感する授業の改善に努める。	生徒の能力に応じた教材作成に努める。	A					
			各種研修会に積極的に参加し、教科内で発表すると共に自己研鑽に努める。	C					
			ALTを積極的に活用し、生徒が積極的にコミュニケーションをする態度を養う。	B					

家庭情報報商業	多方面からの評価に努める。	定期テストだけでなく、提出物や授業態度等多方面からの評価に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・食物の基礎的な知識の定着をはかる。 ・学んだことを家庭生活に生かしていく態度を育てる。
	基礎的な知識の定着を図る。	より良い評価方法を目指し、教科内で話し合いを十分に持つ。	C		
	技術の向上を図る。	プリント学習、調べ学習を適切に取り入れ基礎的な知識の定着を図る。	B		
	生きる力の育成に努める。	調理実習や被服製作を通して、基礎的な技術を身につけさせるとともに、学んだことを家庭生活に生かしていこうとする態度を育てる。	B		
	基本的な技能の育成を図る。	ワープロ、表計算、インターネットなど、多くのソフトを活用する。	C		
	資格取得の奨励。	ワープロ検定（11月）、スピード検定（2月）の資格取得に向けて指導をする。	A		
	情報の有用性を理解させる。	情報を処理した結果を検討、判断させる能力を身に付けさせる。	B		
	情報機器の基本操作を習熟させる。	コンピュータの基本操作と、キーボード操作の習熟を目指す。	A		
	情報処理能力を高める。	基本的処理（合計、平均、ランク、グラフ、印刷）を含めた、書類の作成能力を育成する。	B		
	資格取得の奨励に努める。	各自の能力に応じて資格取得を目指す。ワープロ検定（11月）、スピード検定（2月）	B		
教務	授業時間の確保に努め、生徒の欠課時数の把握に努める。	授業時間の変更を早めに連絡し、学年・教科間の連携をはかり、自習時間を極力なくすように努める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一層欠課時数の連絡を密にし、欠課時数を超える生徒を減らす。 ・より実態に即した教育課程の編成で、学力の向上がはかれるように工夫する。 ・研修会等を通じて、職員の共通理解がはかれるようにする。 ・家庭学習がどうすれば効果的にできるようになるのか、話し合いを継続的に行う。 ・事務的手続きについて簡素化をはかり、負担減がはかれるようにする。
	生徒の実態に応じた教育課程の編成と効果的な学習指導の改善をはかる。	新学習指導要領の実施にあたり、生徒の実態に応じた教育課程編成のため積極的に話し合いを行う。	A		
	校内研修の充実をはかる。	評価と一体化した年間指導計画の実現がはかれるように学習指導の工夫をはかる。	B		
	生徒の学力向上を目指し、学習意欲を喚起に努める。	校内における授業研究や対外的な授業公開を行い、お互いの学習指導の力量を高め、学習指導方法の改善をはかる機会にできるようにする。	C		
	成績不振者に対する指導をより手厚く行い、状況の把握や適切な指導を実施する。	各種の研修会の情報の共有化をはかるために、校内研修会を積極的に実施する。	B		
	成績処理や事務処理の効率化・適正化をはかる。	教科内での教材の共有化や効果的な副教材の選択などの話し合いを推進する。	A		
	学年と連携をとりながら学年行事を計画し、円滑に進める。	学習習慣の確立をはかるために、定期的な宿題の導入など効果的な活用をはかる。	C		
	進路指導を通し、生徒の目的意識を高め、実現に向け必要な能力を身につけさせる。	生徒の能力に応じた適切な指導方法の改善をはかり、習熟度やT Tの活用などを積極的に実施する。	A		
	進路指導を通し、生徒の目的意識を高め、実現に向け必要な能力を身につけさせる。	生徒の実態把握のために学年会、拡大学年會等で情報交換を行い、よりよい方向にいくための方策などを話し合う機会をつくる。	B		
	進路指導を通し、生徒の目的意識を高め、実現に向け必要な能力を身につけさせる。	学年・教科との連携をとり、定期的に補習授業を実施、成績不振者を減らすように努める。	B		
進路指	進路指導を通し、生徒の目的意識を高め、実現に向け必要な能力を身につけさせる。	追試の実施など課題となっている問題等について部内で定期的に改善策を話し合う。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学率を上げるための指導の工夫 ・就職への意識付けと基礎学力の養成 ・進路資料室を利用する生徒の増加 ・進路資料の充実
	進路指導を通し、生徒の目的意識を高め、実現に向け必要な能力を身につけさせる。	定期考査の成績処理の効率化と適正化をはかる。	C		
	進路指導を通し、生徒の目的意識を高め、実現に向け必要な能力を身につけさせる。	指導要録の作成にあたっては、統一性をより重視し、調査書との連携をはかり効率的な作成ができるようにする。	B		
	進路指導を通し、生徒の目的意識を高め、実現に向け必要な能力を身につけさせる。	各学年との間で方針を共通理解し、目標に応じた行事を計画する。	B		
	進路指導を通し、生徒の目的意識を高め、実現に向け必要な能力を身につけさせる。	進路ガイダンス、職場見学等を通じ、各学年での進路意識の位置づけを明確にする。	A		
	進路指導を通し、生徒の目的意識を高め、実現に向け必要な能力を身につけさせる。	「進路の手引き」や必要な情報誌を配付し、学年の進路教育に役立たせる。	B		
進路指	進路指導を通し、生徒の目的意識を高め、実現に向け必要な能力を身につけさせる。	進路講演会、大学の模擬授業、卒業生による講話等を実施し、進路意識を高める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学率を上げるための指導の工夫 ・就職への意識付けと基礎学力の養成 ・進路資料室を利用する生徒の増加 ・進路資料の充実
	進路指導を通し、生徒の目的意識を高め、実現に向け必要な能力を身につけさせる。	毎月進路だより「羅針盤」を発行し、進路情報の提供に努める。	A		
	進路指導を通し、生徒の目的意識を高め、実現に向け必要な能力を身につけさせる。	進学希望者に対して課外や学習セミナーを充実させ、学力向上を図る。	B		
	進路指導を通し、生徒の目的意識を高め、実現に向け必要な能力を身につけさせる。	常識テストを実施し、就職試験に必要な基礎学力を身につけさせる。	B		

導	大学・企業との連携を図り、情報の提供に努める。	いくつかの企業を訪問し、就職者への指導に役立てる。	B		
		大学・短大等の説明会に参加し、情報収集に努める。	B		
		多様な生徒の実態に対応できるように、職員研修を実施する。	B		
特別活動	学校行事、委員会活動を通して帰属意識、協調性、責任感を養う。	全員参加による学校行事を展開し、行事の意義を理解させる。	A	B	・各種委員会活動の活性化
		各種委員会の活動の充実に努める。	C		
		歩く会、クラスマッチ、文化祭への積極的な参加を通して、成就感、達成感を体験させ、連帯感を養う。	A		
生徒指導	部活動への積極的な参加とその継続を図る。	生徒の実態に合わせて、自発的活動ができるように、顧問による適切な指導や助言を行う。	B	B	・頭髪・服装指導の継続的指導。 ・事故の未然防止に向けての指導。 ・挨拶運動を推進する。
		活動を通して、生徒の心身の健康の向上に努める。	B		
		規範意識の確立や服装・頭髪の適正化を目指し、全校集会・学年集会・HR等で周知徹底を図る。	B		
図書	基本的な生活習慣の確立	挨拶、声かけ運動の推進。	C	B	・頭髪・服装指導の継続的指導。 ・事故の未然防止に向けての指導。 ・挨拶運動を推進する。
		生徒指導の強化期間を設け、服装・頭髪・遅刻等の指導に全職員で対応する体制を支援する。	B		
		遅刻カードを利用した遅刻防止対策を遂行し、遅刻者数の削減を目指す。	A		
		携帯電話の正しい使用について周知徹底する。	B		
		校内外の巡視を計画・実施する。	A		
図書	マナーとモラルの向上を目指す。	携帯電話の正しい使用について周知徹底する。	B	B	・頭髪・服装指導の継続的指導。 ・事故の未然防止に向けての指導。 ・挨拶運動を推進する。
		校内外の巡視を計画・実施する。	A		
		喫煙防止講演会を開催し、禁煙教育の充実に努める。	A		
図書	禁煙教育と薬物乱用防止教育の充実に努める。	視聴覚教材を活用し、HR・授業の中で喫煙・薬物乱用防止教育の徹底を図る。	C	B	・頭髪・服装指導の継続的指導。 ・事故の未然防止に向けての指導。 ・挨拶運動を推進する。
		視聴覚教材を活用し、HR・授業の中で喫煙・薬物乱用防止教育の徹底を図る。	C		
		視聴覚教材を活用し、HR・授業の中で喫煙・薬物乱用防止教育の徹底を図る。	C		
図書	図書利用の活性化を図る。	毎日閉館して生徒の読書環境を充実させ、館内の美化と整備に努め、利用者数の増加を図る。	A	B	・図書の貸出冊数と利用人数の増加。 ・図書室内の環境整備等における委員会活動の活性化。
		委員会活動を活発化し、「図書館便り」発行や新着本の掲示など広報活動に努める。	B		
		感想文・感想画の校内コンクールを実施し、優秀作品を県のコンクールに出展する。	A		
保健厚生	読書意欲を向上させる。	読書会や各教科と連携した読書指導を通して優れた図書に触れさせ、道徳や総合学習進路における図書館利用を活発化し、進路や人生について考える機会を増やすように努める。	B	B	・教育相談体制の整備を進め、こころの問題の早期発見・適切な対応を行う。 ・健康課題に即した保健指導を行う。
		読書会や各教科と連携した読書指導を通して優れた図書に触れさせ、道徳や総合学習進路における図書館利用を活発化し、進路や人生について考える機会を増やすように努める。	B		
		読書会や各教科と連携した読書指導を通して優れた図書に触れさせ、道徳や総合学習進路における図書館利用を活発化し、進路や人生について考える機会を増やすように努める。	B		
		読書会や各教科と連携した読書指導を通して優れた図書に触れさせ、道徳や総合学習進路における図書館利用を活発化し、進路や人生について考える機会を増やすように努める。	B		
		読書会や各教科と連携した読書指導を通して優れた図書に触れさせ、道徳や総合学習進路における図書館利用を活発化し、進路や人生について考える機会を増やすように努める。	B		
保健厚生	学校環境の整備及び美化に努める。	自然や環境に配慮し、ゴミの分別を徹底させる。	B	B	・教育相談体制の整備を進め、こころの問題の早期発見・適切な対応を行う。 ・健康課題に即した保健指導を行う。
		清掃指導を徹底し、快適な学習環境を整える。	B		
		特別支援を要する生徒を把握し、学期に1度支援会議を行う。	A		
保健厚生	教育相談の充実に努める。	月に一度、教育相談の情報交換を行い、学級・学年・進路指導部・生徒指導部・図書部との連携を図る。	B	B	・教育相談体制の整備を進め、こころの問題の早期発見・適切な対応を行う。 ・健康課題に即した保健指導を行う。
		月に一度、教育相談の情報交換を行い、学級・学年・進路指導部・生徒指導部・図書部との連携を図る。	B		
		スクールカウンセラーによるカウンセリングが充実するよう、生徒・保護者に周知・広報する。	A		
保健厚生	健康への意識の向上を図る。	生徒が自ら自己の健康状態を正しく把握し、その維持向上を図れるよう指導助言する。	C	B	・教育相談体制の整備を進め、こころの問題の早期発見・適切な対応を行う。 ・健康課題に即した保健指導を行う。
		生徒が自ら自己の健康状態を正しく把握し、その維持向上を図れるよう指導助言する。	C		
		生徒が自ら自己の健康状態を正しく把握し、その維持向上を図れるよう指導助言する。	C		
渉外	PTA活動の活性化を図る。	PTA役員と学校との連携を密にする。	B	B	・PTA行事特に支部総会・PTA総会での出席率を高める。 ・成人教育の研修のあり方について見直しを行う。
		PTA総会および春季支部総会等、PTA関連行事の活性化を図るとともに、保護者に対して学校の教育活動について理解を求める。	B		
第一学	基本的な生活習慣を確立させる。	校内でのあいさつに力を入れる。	A	B	・正しい判断力の育成、基本的な生活習慣の確立。 ・生徒指導面では、ピアスや服装等の指導、喫煙や指導拒否など問題行動への対応。
		清掃活動等をとおして奉仕のこころを育成し、生徒に責任感を持たせる。	C		
		遅刻や欠席の状況を把握し、生徒に規則正しい生活習慣が身につくように指導する。	C		
		不登校の生徒については、保護者と連絡を密にし、生徒にとって最善の方法を考えていく。	B		
		服装・頭髪の指導をとおして、身だしなみを正し、社会で通用する人物を育てる。	D		
		生徒の観察や面談、保護者との連絡を密にして、生徒理解に努め、事前に問題行動を防ぐ。	B		
基礎学力を定着させる。	授業に臨む態度を養い、基礎的な学力を身につけさせるように取り組む。	B			

年		小テストや実力テストを実施し、学習成果を確認させ、生徒それぞれの目標を考えさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の能力にあった学習指導や進路指導、生徒の学力差への対応 ・特別支援などでの各機関との連携。 ・身だしなみへの規範意識を確立する。 ・主体的な学習への態度を育成する。 ・進路意識と学習意欲を高める。
		希望課外を実施して、幅広い学習ができるように努める。	B	
		成績不振の生徒に対して、個別に対応し、家庭とも連携しながら苦手科目の克服を目指す。	C	
自己実現に向けた進路指導をおこなう。		進路ガイダンスなどで、生徒の進路に対する意識を高め、将来の方向性を考えさせる。	B	
		体験学習を実施し、将来の自己実現に向けて、個々の目標を持たせる。	B	
第 二 学 年	基本的な生活習慣を養う。	立哨指導と遅刻カード活用の徹底を通して、規則正しい生活リズムを培わせる。	B	
		定期的に服装や頭髪指導を実施し、校則を遵守する態度を育成する。	B	
		生徒との面談・相談や生徒の観察等を通して生徒の実態把握や生徒理解に努める。	B	
		問題行動を防止するために、家庭との連携を密にする。	B	
	基礎学力の向上に努める。	予習・復習を励行し、授業に対する主体的な取り組みができる態度を育成する。	C	
		各種セミナー・検定試験に積極的に参加し、より高い学力の習得を目指す。	B	
小テストや実力テストを活用し、学力を定着させ、幅広い知識・教養を身につけさせる。		B		
成績が低下した生徒に関しては、生活全般との関わりも含め、家庭との連携を密にする。		B		
類型の特性を活用し、個々の進路希望に対応できる学力の養成に努める。		成績が不振の生徒に対し、授業の内容を補填するための課外を実施する。	B	
		生徒一人一人に合った進路指導体制を充実させる。	C	
		総合的な学習の時間を利用し、進路について深く考えさせる。	C	
		進路別課外・小論文指導・進路ガイダンス等を通じて、進路意識と学習意欲を高める。	C	
		進学希望者には、校外模試への参加を積極的に促し、的確な自己評価を踏まえ目標を持たせる。	C	
		就職希望者には、個々の適性にあった目的を持たせ、日々の生活や部活動を通して心身の充実を図る。	C	
第 三 学 年	基本的な生活習慣の確立。	卒業学年としての自覚を持たせ、基本的な生活習慣の確立に努める。	B	
		定期的に服装や頭髪指導を実施し、規範意識の向上に努める。	B	
		問題行動の防止のため、家庭との連携を密にする。	A	
	学習について主体的に取り組む態度を育成する。	毎時間の授業を大切に、学力の定着に努める姿勢を養う。	C	
		小テストの実施により、基礎学力の向上に努めるとともに主体的な学習態度を育成する。	B	
		英語検定、漢字検定、コンピュータ検定等の資格取得を奨励する。	B	
	進路希望の実現に努める。	進路指導の研修に努め、生徒の実態や進路希望に即した学習計画を立てる。	A	
		実力養成課外、就職対策課外、小論文指導、進路ガイダンス等を通じて、生徒一人一人に合った進路指導体制を充実させる。	A	
		総合学習やLHRでの進路別学習を通して進路意識を高め、生徒一人一人の目標を達成できるように努める。	A	
		オープンキャンパスや学校説明会、職場見学に積極的に参加させ、進路希望実現のために役立たせる。	A	

※評価基準： A：目標が十分に達成された B：ある程度成果が見られた C：取り組んだ D：課題を残した E：取り組むことができなかった